

地域経済季報

(令和4年4～6月期)

総評

今期は、新型コロナウイルス感染症による行動規制の緩和、また、ワクチンの接種も進んでいることもあり、緩やかに経済が動き始めている。観光関連業では、GoToEatしめの飲食券による消費の促進、大型連休による観光客の入込数は感染症拡大前の水準には戻りきれないものの、コロナ禍以前より6割方回復傾向にある。また、巣ごもりでの内食需要は落ち着きを見せ続けているが、同じく前年同期比より回復傾向にある。そのような中、サプライチェーンの混乱や材料・エネルギー物価の高騰、円安等による影響が大きく、ほとんどの業界で仕入価格高騰が起きている。自動車・家電等の製造業では、未だ半導体の供給不足により品薄状態が続いており、受注があるが納品できない状況が続いており、当面は改善の兆しは見られない。

来期は、引き続き原材料高騰による影響で、建設・製造業だけでなく、卸売業などにも厳しい状況と予想する。飲食・宿泊業については、まん延防止等重点措置が解除されているが、国民に広がっている“コロナマイナド”がすぐに取り払われることはないため、コロナ禍以前に回復していくには時間がかかると思われる。さらに、現在、コロナウイルス感染者数が激増しており、第7派到来と考えられるため、慎重を期す必要がある。

		前期状況 (1～3月期)	今期状況 (4～6月期)	来期見通し (7～9月期)	調査事業所のコメント
建設業		→	→	→	今期は、官公・民間需要の停滞もあり業況は改善には至っていない。とりわけ、コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻、数千年ぶりの円安水準等の複合的な要因も相まって、建設資材や住宅機器が高騰しており、収益を悪化させる事態を招いている。従業員より下請業者の確保の問題も慢性化している。来期は、建設資材等高騰の鎮静化は期待できず、公共工事はもとより、民間工事においても物価スライド条項が適切に設定・適用されるよう環境整備が急務である。
製造業		→	→	→	今期は、世界情勢の悪化から材料、エネルギー価格の上昇が止まらない。上海ロックダウンで部品不足に拍車がかかり、急激な円安、メーカーの減産で下請企業は生産計画の変更を余儀なくされた。物流費、人件費などコストアップが重なるものの、全てを価格転嫁できず収益悪化に苦慮している。来期は、状況改善の道筋は見えず、不安定な状況が続く見通し。
卸売業		→	→	→	今期は国内需要の停滞に対して原油高、原材料高による値上げの影響だけでなく、上海ロックダウンによってサプライチェーンが機能せず、販売できる商品不足も影響し低調に推移。来期についてもロックダウンは解除となったもののすぐには回復せず、また原油高とロシア・ウクライナ戦争による原材料高に加え、円安による輸入品の高騰もあり、引き続き低調に推移するものと思われる。
小売業	衣料品	→	→	→	今期は、息根無のまん延防止等重点措置の解除後の4、5月は人流の回復もあったが、6月は若干の落ち込みもあり昨年度並みか若干良い程度で推移。来期は気温が高くなりすぎると人出が鈍ることも予想される。また、円安、エネルギー貴の高騰に起因する物価高騰が大きくなり、衣料品に掛ける家計支出は後回しとなることも考えられる。原材料費については値上りの前の材料が使われていることもあり、また影響は大きくないが、今後は、影響が拡がること予想される。
	家電	→	→	→	今期も展示販売会等の開催が困難な状況が続いた。また、世界的な半導体不足の影響で、家電製品の品薄状態が続いた。一部メーカーでは、新商品の発売時期の見通しが立たないなど店頭における混乱が生じた。来期は、ラニーニャ現象の影響により、例年より平均気温が高くなる見通し。そのため、エアコン需要が高まることと予想される。しかし、半導体不足等の影響により、量販店ではエアコン入荷に遅れが生じる恐れもある。
	自動車	→	→	→	今期は、オミクロン株の感染拡大による工場稼働への悪影響、サプライチェーンの混乱による部品の供給遅延などが依然として収束を見えないこと等から前年同期比登録台数減少。中古車市場は、新車の長期納期化による高年式中古車の引き合いが高まっているものの、供給量は足りない状況が続いている。来期については、半導体をはじめとする部品不足の問題も長期化しており不透明な状況により、引き続き厳しい状況が続くものと思われる。
	総合量販店	→	→	→	今期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動制限や飲食店利用時の人数が緩和され、来店客数は徐々に増加した。出かけ需要も増え衣料品（特に婦人服）、化粧品、服飾雑貨の売上は好調であった。GWには恒例の物産展も催催でき前年を上回る成果がでた。来期は、生産国のロックダウンの影響で商品が一部入荷されていないことや、世界的な物価高騰（原材料や原油など）に伴う様々な商品値上げの影響が懸念材料。国内だけでなくインバウンドの人流も増加し多くのお客様に来店いただける状況になるよう期待する。
	スーパー	→	→	→	今期は、感染症拡大の落ち着きによりこれまで高まりを見せていた内食需要が落ち着きが見えた影響と生鮮食品をはじめとする販売商品の値上げ傾向により、前期と比較し来店客数は減少傾向。また、仕入れ価格の高騰による商品販売価格の高騰により客単価は高水準で推移している。来期は、長期化する物価高騰が消費者の購入意欲にどこまでマイナスの影響を与えるのか懸念される一方、緩和傾向にある外出規制による人流変化に期待する。
サービス業	特産品	→	→	→	今期は、売上高・客数ともに前年比150～200%で推移した。コロナ禍で売上が低迷していた、大容量の商品や賞味期限の短い商品についても、県外旅行者や修学旅行生の増加、イベント、コンサートの再開に伴い、回復傾向にある。来期については、比較的コロナの影響の少ないお中元シーズンに入するため、前年同期比より増加傾向になると予想される。
	飲食	→	→	→	今期は、6月に飲食店等の利用に関する人数制限が解除され、ようやく団体需要も散見されるようになり日によっては賑わいが戻ってきた感もあるが、GW期間や一部の店舗を除いては低調な状況で推移した。来期も、感染状況に大きく左右されるが、夏休みシーズンの観光需要の回復に期待。但し、外食を控える傾向が長引いたため、地元客の需要は徐々にしか回復していかないと予測。
	旅館・ホテル	→	→	→	今期は、5月の大型連休を挟み、コロナ禍による行動制限がなかったこともあり、昨年の2倍の観光入込、コロナ前の6割まで回復した。これにより、特にGW前半については稼働率が高くなり、全国幅広い地域からの観光客が見受けられた。GW以降宿泊者は減少。We Love!山陰の効果も薄かった。来期は夏休みに期待するところであるが、予約状況は低調であり、今後のコロナに対する国の対応等を見据えながら、宿泊客数増に期待する。
	運輸・旅客	→	→	→	今期は夜の客足より観光目的の客が戻っている印象があるが、コロナ禍でドライバーの出勤を減らしてきた状況下では、即時稼働させようとしてもシフトがうまく編成できなく、6月に入り徐々に感染者数も増加し入込数や夜の人流の減少が懸念され、前年同期比では売上増が見込まれるものの劇的な好転は期待薄く厳しい状況が予想される。

※売上の前年同期比について → → → により表しています。